

気候データ解析

担当 西 憲敬(NISHI Noriyuki)

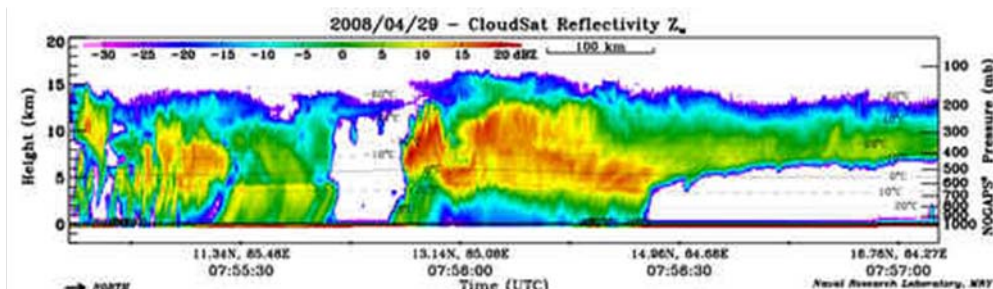
- 複雑な気候システムを理解するためのひとつの有効なスタートは、気候を構成するひとつの過程をきちんと理解することです。衛星データなどを用いて、気候システムの解析を行いましょ。
- 一般にはあまり大きく取り上げられてはいませんが、ここ約 10 年間に重要な測器を積んだ気象衛星が次々と打ち上げられています。たとえばライダーを積んだ CALIPSO や波長の短いレーダーを積んだ CloudSat は温暖化に重要な役割を果たす巻雲の 3 次元分布のデータを蓄積しています。また GPS 衛星の COSMIC によって、全球の温度分布を良い精度で計れるようになりました。これらのデータは広く研究者に公開されているのですが、データ量も膨大でまだまだ使い切れていないのが現状です。
- 演習は教員と話し合いながら個別に進めていきます(前期 DB の気候課題をとられた方は、それをより深めたやり方だと思っていただいて結構です)。
- この機会にやや本格的な研究スタイルで半年間じっくり取り組んでみたいという方の受講をお待ちしております。火曜午後の所定時間以外に、ある程度まとまった解析を行う時間をもてる方の受講を希望します。
- Fortran など何かプログラミング言語が使えるか、もしくは習得する興味があることを前提といたします。

連絡先 1号館 363 室

753-4275

nishi@kugi.kyoto-u.ac.jp

<http://www-clim.kugi.kyoto-u.ac.jp/nishi>



CloudSATがとらえたサイクロンNargisの断面。雨だけでなく雲の鉛直構造もよくとらえられている。(コロラド大学のサイトより)